

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 インフレ懸念後退 (05年5月生産者物価)

発表日: 05年6月14日(火)

~ 生産者段階での価格上昇圧力は徐々に緩和 ~

(No. UI - 046)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

| | 最終財 | | 生産者物価 (Producer Price Indexes) | | | | | 原材料 | | <参考> | |
|-------|------|--------|--------------------------------|--------|------|------|------|------|-------|------|------|
| | 前月比 | 前年同月比 | コア | エネルギー | 中間財 | コア | コア | 輸入物価 | WTI | | |
| 04/05 | +0.6 | (+4.9) | +0.1 | (+1.5) | +1.4 | +1.0 | +0.8 | +3.3 | 4.6 | +0.2 | 40.2 |
| 04/06 | 0.1 | (+4.0) | +0.3 | (+1.7) | 0.8 | +0.4 | +0.3 | +0.8 | 0.4 | +0.1 | 38.6 |
| 04/07 | +0.1 | (+3.8) | 0.1 | (+1.4) | +2.5 | +0.6 | +0.5 | +0.1 | +10.9 | +0.0 | 40.7 |
| 04/08 | +0.1 | (+3.3) | +0.3 | (+1.5) | +0.3 | +1.0 | +1.0 | 0.3 | +2.5 | +0.3 | 44.9 |
| 04/09 | +0.3 | (+3.3) | +0.3 | (+1.7) | 0.2 | +0.3 | +0.8 | 4.5 | 1.3 | +0.1 | 45.8 |
| 04/10 | +1.5 | (+4.5) | +0.3 | (+1.8) | +5.7 | +1.0 | +0.5 | +4.3 | +4.3 | 0.1 | 53.2 |
| 04/11 | +0.7 | (+5.0) | +0.3 | (+2.0) | +2.7 | +0.8 | +0.3 | +7.6 | +3.1 | +0.9 | 48.5 |
| 04/12 | 0.3 | (+4.2) | +0.2 | (+2.3) | 2.4 | +0.1 | +0.4 | 3.1 | 1.4 | +0.4 | 43.3 |
| 05/01 | +0.1 | (+4.1) | +0.7 | (+2.6) | 1.0 | +0.3 | +0.7 | 2.0 | 2.5 | +0.3 | 46.9 |
| 05/02 | +0.4 | (+4.7) | +0.1 | (+2.8) | +1.4 | +0.6 | +0.5 | 1.2 | 3.3 | +0.1 | 48.1 |
| 05/03 | +0.7 | (+4.9) | +0.1 | (+2.6) | +3.3 | +1.0 | +0.3 | +4.3 | +1.0 | +0.3 | 54.6 |
| 05/04 | +0.6 | (+4.8) | +0.3 | (+2.6) | +2.1 | +0.8 | +0.2 | +2.7 | +0.8 | +0.4 | 53.0 |
| 05/05 | 0.6 | (+3.5) | +0.1 | (+2.6) | 3.5 | 0.7 | 0.3 | 2.0 | 3.6 | 0.3 | 50.0 |

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比 (未季調)。

コアが前月比 +0.1% と鈍化

05年5月の生産者物価(最終財)は、エネルギー・食品価格の下落によって前月比0.6%と下落幅が市場予想の同0.2%を上回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、自動車を含んだ消費財が鈍化したことにより同+0.1%と市場予想の同+0.2%を下回り、生産者段階での物価上昇圧力が弱まっていることが示された。

上昇圧力はピクアウト

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、中間財(コア)が+3.8%(4月同+5.8%)と鈍化傾向を辿っており遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+2.2%(4月+3.0%)と2ヵ月連続で鈍化したように、生産者段階での物価上昇圧力は弱まっている。

資本財、消費財コアが鈍化

最終財のカテゴリー別の動向をみると、エネルギーは前月比3.5%(4月同+2.1%)とマイナスに転じた。天然ガスが同0.9%(同+6.6%)、ガソリンが同9.9%(同+2.6%)と下落し、ヒーティングオイルが同7.8%(同1.7%)とマイナス幅を拡大した。食品関連では、野菜が同15.0%(同+1.1%)と下落に転じたため、食品価格は同0.3%(同+0.1%)とマイナスに転じた。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、薬が前月比+0.4%(4月同+0.9%)、タバコが同+0.8%(同+1.0%)、宝石・プラチナ・金が同+0.1%(同+0.4%)、玩具・ゲームが同+0.0%(同+0.6%)とプラス幅を縮小した。さらに、女性物衣料が同1.6%(同+0.6%)、乗用車が同0.2%(同+0.5%)とマイナスに転じたことから、消費財(エネルギー・食料品を除く)は同+0.1%(同+0.2%)と鈍化した。

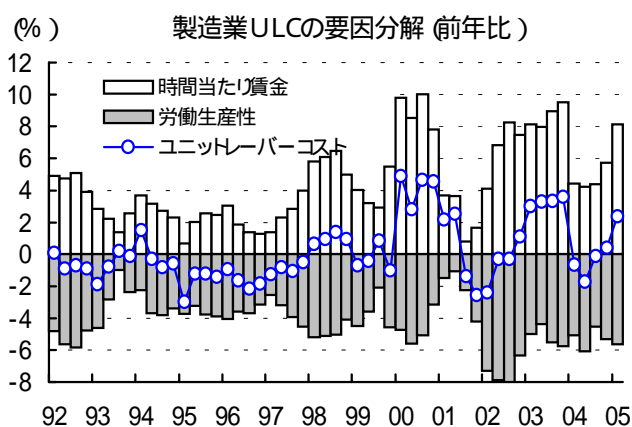
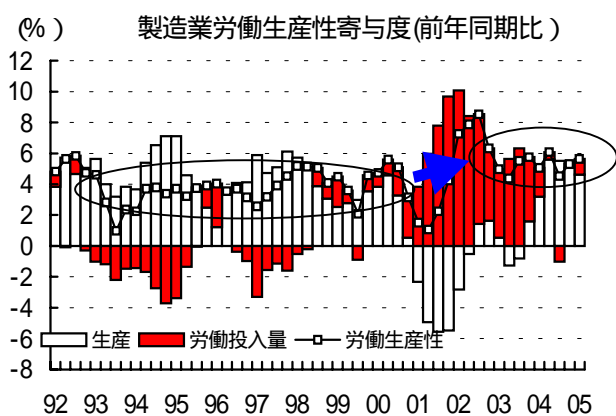
他方、設備投資の堅調が続く資本財では、建設機械・機器が前月比+2.2%(4月同+0.1%)、石油・ガス田掘削機が同+1.2%(同+0.2%)と加速した。一方で、品質向上や

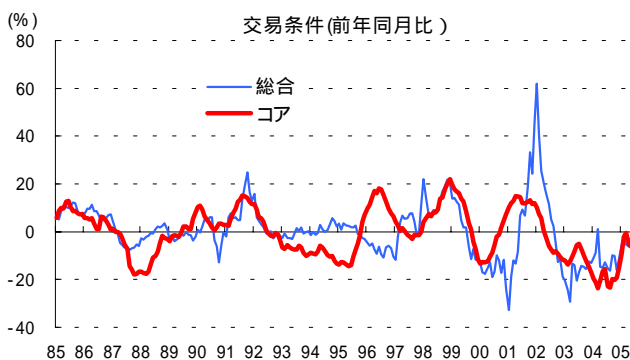
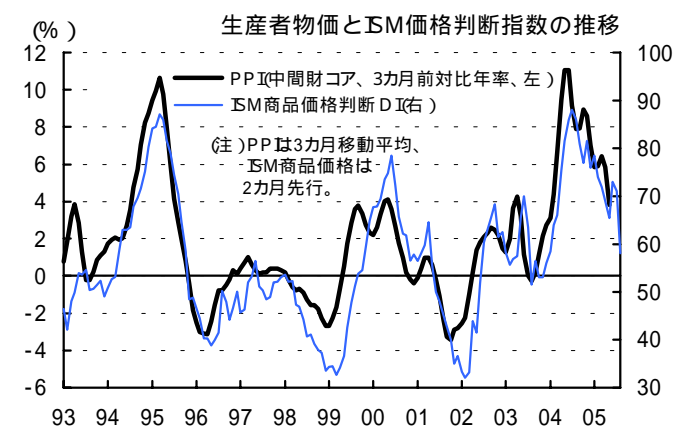
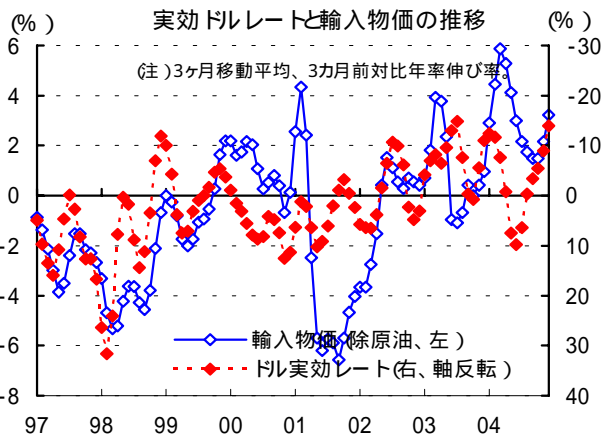
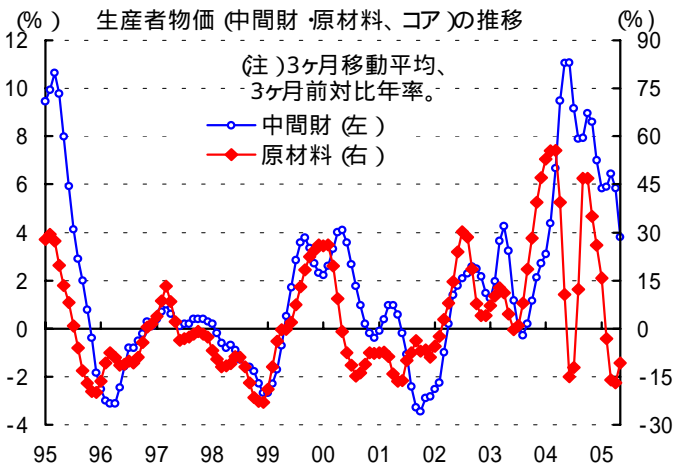
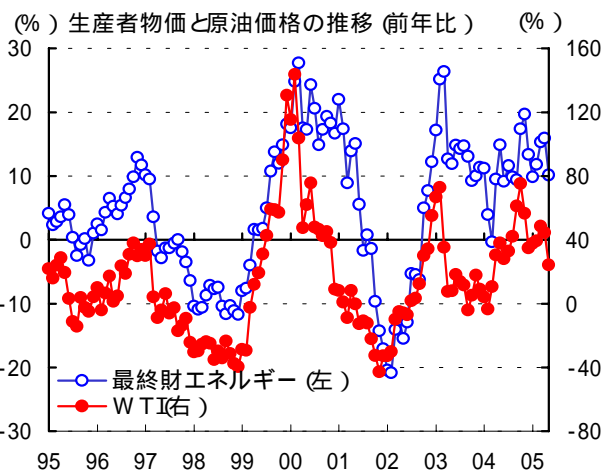
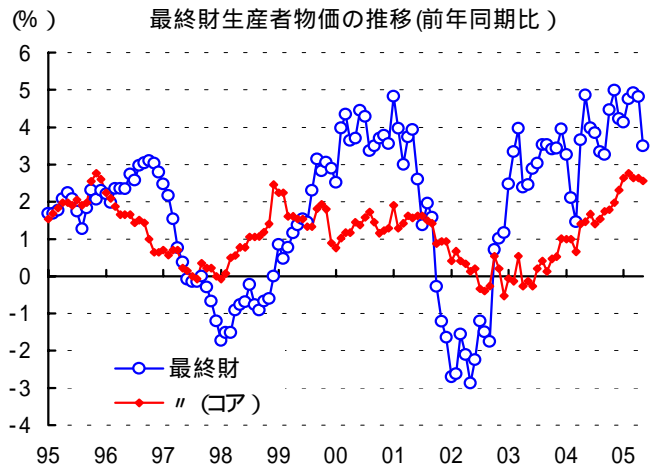
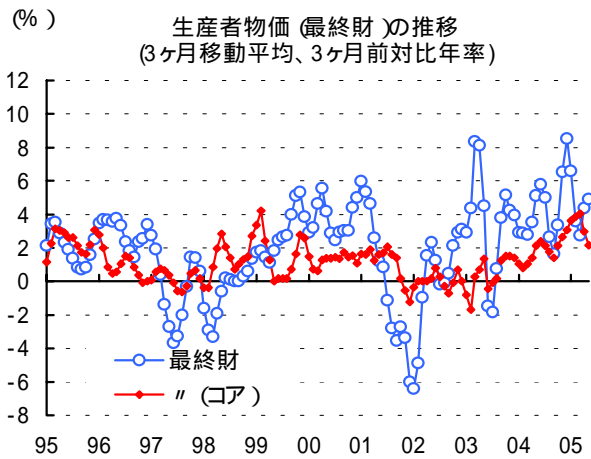
値引きによってコンピューターが前月比 4.8% (4月同 0.8%) と下落幅が拡大した。さらに、需要が強い大型トラックが同 +0.6% (同 +0.6%) と前月と変わらずとなったものの、トレーラーが同 0.1% (同 +1.0%)、軽トラックが同 0.9% (同 +0.6%) と自動車関連で下落したこと等によって、全体では同 +0.1% (同 +0.2%) と鈍化した。

生産者物価 (最終財) コアは前年比で鈍化する見込み

今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料 (コア) が5月に 10.8% (4月 17.0%) と下落幅が縮小したものの依然マイナスであること、中間財 (コア) に2ヵ月程度先行する仕入価格指数 (ISM製造業景気指数) が2004年4月をピークに低下傾向を辿っていること、商品・原油価格が足下で高値から低下していることから、目先川上段階でのインフレ圧力はピーク時から徐々に弱まっているとみられる。

今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く可能性が高く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格 (コア) も再び上昇に転じると見込まれる。しかし、製造業では数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられる。さらに、物価押し上げ圧力が前年比では年末にかけて限界的には縮小することから、生産者物価 (最終財) コアの上昇ペースは前年比で鈍化する公算が大きい。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。